

重要なお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、本館関連の催し物について、本コーナーに掲載の情報も含め、急遽、予定を変更する可能性がございます。詳細につきましては、決まり次第本館ホームページに掲載いたします。何卒ご理解のほど、お願い申し上げます。

梅棹忠夫生誕100年記念企画展
「知的生産のフロンティア」

みんなく初代館長を務めた梅棹忠夫が残したアーカイブズ資料とデジタル・データベースをとおして、フィールドワークから著作への「知的生産」をくわしく紹介します。



フィールドノートから内容別に転記したローマ字カード (写真撮影 尼川匡志)

会期 未定
会場 本館企画展示場

特別展

「先住民の宝」

世界には、「先住民」と呼ばれる人たちがいます。先住民とはだれか？「宝」にこめられた思いとは何なのか？本展覧会では、日本のアイヌをはじめ、北欧、カナダ、オーストラリア、中南米、アフリカ、台湾、ネパール、マレーシアなど、世界各地に暮らすそれぞれの「先住民」が大切にしている「宝」を展示します。



彫像「つむじ風の精霊」
(マレーシア オラン・アスリ)

「開幕を延期します」
巡回展

「特別展 驚異と怪異
——モンスターたちは告げる——」

会期 未定
会場 兵庫県立歴史博物館
休館日 月曜日
主催 兵庫県立歴史博物館 神戸新聞社
国立民族学博物館 千里文化財団
兵庫県 兵庫県教育委員会
NHK神戸放送局
サンテレビジョン ラジオ関西
協力 山陽電気鉄道株式会社
神姫バス株式会社
特別協力 ライデン国立民族学博物館

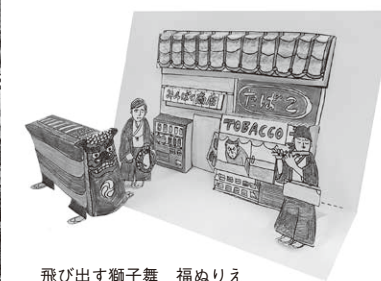
※各イベントについてくわしくは、みんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせ受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。



搬入作業の様子

みんなくクラウドファンディング報告
「世界とつながる——トリーテムボールをカナダ先住民のアーティストと造ろう」
みんなくクラウドファンディング「世界とつながる——トリーテムボールをカナダ先住民のアーティストと造ろう」により、温かいご支援を賜りましたトリーテムボール制作プロジェクトですが、カナダで制作されたトリーテムボールが、4月10日、みんなくに到着いたしました。大型トレーラーで運ばれたのち、大型クレーンによる搬入作業が行われました。

「おうちでみんなく」のご案内
現在、ご自宅、お手元でみんなくに触れていただくための「おうちでみんなく」のサイトを公開しております。「バーチャルミュージアム」「ぬりえ5種類」、「飛び出す獅子舞 福ぬりえ」「ペーパービーズ」、「読んでみよう」のコンテンツをまとめております。再開しましたら、是非実際の資料を見に足をはこんでいただければと思います。
<https://www.minpaku.ac.jp/museum/news/ouchi>



飛び出す獅子舞 福ぬりえ

バーチャルミュージアム



研究部新メンバー

岡田恵美准教授(人類基礎理論研究部)



東京藝術大学大学院で博士号を取得後、琉球大学教育学部を経て現職。専門分野は音楽民族学。インドの鍵盤楽器文化や楽器産業、また近年はインド北東部少数民族のポリフォニーの歌唱文化を研究。

島村一平准教授(超域フィールド科学研究部)



総合研究大学院大学を単位取得退学後、滋賀県立大学を経て現職。後に博士号(文学・総合研究大学院大学)取得。専門は文化人類学・モンゴル地域研究。主にシャーマニズム、チンギス・ハーン表象、ポピュラー音楽、チベット・モンゴル仏教実践などを研究。

末森薫助教(人類基礎理論研究部)



筑波大学大学院で博士号を取得。東京文化財研究所客員研究員、国際協力機構大工部ト博物館保存修復センタープロジェクト専門家、関西大学国際文化財文化研究センターPD、民博機関研究員を経て現職。博物館資料の保存・管理に関する実証的研究、中国の石窟寺院を対象とした研究に携わる。

諸昭喜助教(学術資源研究開発センター)



奈良女子大学大学院で博士号を取得後、みんなくの外来研究員として研究に従事。専門は医療人類学。韓国の「産後風」という病いを事例として、バイオメディカルなパラダイムの中で伝統医学の病い、病いの文化的な構築などについて研究。

刊行物紹介

■齋藤晃編

『宣教と適応
——グローバル・ミッションの近世』
名古屋大学出版会 6,800円(税別)

大航海時代から啓蒙時代にかけて、アジアやアメリカに派遣されたイエズス会士らは、現地社会に適応することで布教を試みる。だが、それは今日なお解決しえない難問の蓋を開けることだった。本書は異文化適応を軸にキリスト教の世界宣教の全体像に迫るものである。



■古川不可知著

『「シェルパ」と道の人類学』
亜紀書房 3,200円(税別)

ネパール東部のソルクンプ郡は、エベレストを眼前に望む山岳観光の名所である。本書では、この地域に住むシェルパの人々の暮らしと観光化によるその変容を、住み込み調査に基づいて描き出す。そのうえで、険しい高山の環境下において歩くとはどのような実践か、「道がある」とはいかなる事態かを考察してゆく。



■末森薫著

『敦煌莫高窟と千仏図
——規則性がつくる宗教空間』
法蔵館 12,000円(税別)

古代シルクロードを代表する敦煌莫高窟。数多の洞窟は、小さな仏を並べた「千仏」で彩られている。一見単調な千仏図は、壁面を満たす装飾とも捉えられてきたが、その規則性が示す視覚的特徴は、宗教空間をつくる上で欠かせないものであった。収録する多くの図版を頼りに、千仏図がつくる古代仏教世界を感じてもらいたい。



友の会

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円
第498回 7月4日(土)13時30分～14時40分
植物と人の関わり

——タケ科植物、ヤシ科植物の道具利用を中心に

講師 上羽陽子(本館 准教授)

人類は植物を利用して、シエルター、狩猟具、運搬具、結束具などをどのように作りだしてきたのでしょうか。本講演では、インド北東部アッサム地域とインドネシア、ティモール島西部のタケ科植物とヤシ科植物の採取・加工・利用の事例から、道具資源としての植物利用について紹介します。現在の民族誌調査から、人類がどのようなものづくりをしてきたか、植物利用の実態に迫ります。※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

動画を配信します！(5月上旬公開予定)

研究者のお話しを配信します。臨時休館期間も友の会をお楽しみください。初回は久保正敏先生のお話です。

「アギリスとオーストラリアをつなぐ風」

話者 久保正敏(本館 名誉教授、千里文化財団専務理事)
イギリスはなぜ、遠く離れたオーストラリアに植民することができたのでしょうか。そのヒントは「地球大気の大循環」にあります。

<https://www.senri-f.or.jp/tomomovie00/>



新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、左記友の会講演会は、予定しておりました日程での実施を見合わせることにいたしました。延期する場合は確定次第ご案内いたします。

■5月9日(土)
梅棹忠夫生誕100年記念対談
「知的生産のフロンティアの原点
——探検家梅棹忠夫を語る」

■6月6日(土)
「アヌコロアイヌイコロマケル
——国立博物館の挑戦」

